ドクターズ・リレーエッセイ 第5回

今号は浅川恭行先生

（浅川産婦人科、東邦大学医療センター大橋病院客員講師）

このリレーエッセイには、冊子にご協力いただいている「おぎゃー献金」の活動を推進する産婦人科医の先生が登場し、妊娠中のママやパパに向けたメッセージを発信します。

今号のテーマ

分娩時だけでなく、妊娠生活から立ち会って

夫婦でよく話し合いながら、妊娠・出産・育児の喜び、楽しみ、大変なことをどんどん共有していきましょう

パパや家族が分娩に立ち会うメリットはさまざま

立ち会い出産を希望するご夫婦は多くいます。ママにとって、パパや家族がそばで励ましてくれるなかでの分娩は、リラックスすることができるため、陣痛の痛みや不安が和らぐというメリットがあります。また、パパにとっては、生まれてくる瞬間を自分の目で見ることでわが子の誕生をより実感し、ママや赤ちゃんへの愛情をより深めることになるでしょう。さらに、もし分娩中に緊急医療処置が必要となった場合、立ち会っているパパはその経緯や処置について、よりよく知ることもできます。立ち会い出産は、夫婦、親子、家族の絆を形成し、強めていく機会だと思います。

分娩時だけでなく妊娠生活中から「立ち会い」を

医療施設によってはパパや家族が分娩に立ち会えないところもありますし、ご夫婦のいずれかが立ち会いを希望しない場合にはもちろん無理に立ち会う必要はないと思います。「立ち会い」が必要なのは分娩中だけではありません。パパがママに寄り添うのは、分娩時だけでなく、妊娠生活でも育児生活でも必要なこと。夫婦でよく話し合いながら、妊娠・出産・育児の喜び、楽しみ、大変なことをどんどん共有していきましょう。とくに、妊娠中はホルモンバランスの影響で気持ちが不安定になることがあるので、パパはしっかりママの気持ちに寄り添ってください。

気になることは自己判断をせず担当の先生に相談を

妊娠中の体や胎児について気がかりに思うことは、自己判断をして悩んだり放置したりせず、担当の先生に相談してください。たとえば、超音波検査で子宮筋腫が見つかって不安に思う妊婦さんもいますが、実は子宮筋腫はかなり多くの女性がもっているもの。小さなものが1～2個ある程度なら妊娠・出産への大きな影響はないので心配しないでください。とはいえ、子宮筋腫の大きさや出来ている場所によってはトラブルの原因にもなるので、担当の先生の話を聞いておく必要はあります。どんなことでも自己判断をせず、担当の先生に相談しましょう。

PROFILE

浅川恭行先生／1993年東邦大学医学部卒業。2001年同大学院医学研究科卒業後、東邦大学医学部助手、東邦大学医療センター大橋病院講師等を経て、10年より医療法人晧慈会浅川産婦人科へ。日本産婦人科医会幹事、日本産科婦人科内視鏡学会理事、日本産科婦人科学会医療改革委員会委員等を務める。

おぎゃー献金基金とは

「健康で生まれてほしい」…これから誕生する赤ちゃんへ、家族の切なる願いです。赤ちゃんの「おぎゃー」という産声とともに、この願いは満たされます。しかし、ごくわずかですが、遺伝病や心身に障がいを持って生まれてくる赤ちゃんもいます。「おぎゃー献金」は、心と体に障がいのある子どもたちに思いやりの手を差し伸べる愛の運動です。

1963年、重度の心身障がい児の3姉妹に救いの手を差し伸べた1人の産婦人科医の善意から、この運動は始まりました。以来、「おぎゃー献金」は、約半世紀にわたって出産を終えたママやそのご家族などの思いやりに支えられ、心身障がい児のための援助を続けています。

詳しくはこちらから

パソコンから　おぎゃー献金　検索

http://www.ogyaa.or.jp/

モバイルから

二次元コードからアクセスしてください

※一部非対応の端末があります。